

大蔵寺と栗野自治会（旧栗野区）との問題について

地元有力者の横暴への抵抗

大蔵寺は20年ほど、地元地域との間で紛争が続いております。

これらの事柄は、大蔵寺自身の問題として内部で解決を図ろうとしてきましたが、近年、地域の方々からは、この紛争の原因と、一体何があったのかという問いが多く寄せられるようになってきたことから、紛争の事実を公開するに至りました。

これまで一方的に悪評が流布されている中、大蔵寺が弁明をする機会を一切持つことが出来なかった事、そして寺院として事を荒立てる事を良しとせず、時間が解決してくれることを当てにしていた事を深く反省をし、長年ご心配をして下さっている沢山の方々への情報源としてホームページ上で事実の公開を致します。

長い時間紛争状態にありましたので、その間の出来事は膨大な情報量となってしまいますので、大まかな流れを述べさせていただきます。

大まかな流れ

昭和の五十年代、先代代表役員（住職）の時に、栗野自治会（旧栗野区）の有力者によって、大蔵寺は宗教法人法や寺院規則を放棄し、自治会員から大蔵寺役員を選出する事を強要され、宗教法人大蔵寺は、地元の寺院とされてしまいました。

わかりやすく言えば、地元自治会による宗教法人乗っ取りです。

自治会員は大蔵寺の檀家でも信者でも無いものが全てで、仏教徒では無い住民も多数存在しておりましたが、高齢であった当時の代表役員は、地元有力者に抗うことが出来ず、結果として大蔵寺正規の檀家信者が離れて行ってしまい尚更、地元自治会に依存しなければ運営できない状況に陥っておりました。

現大蔵寺代表が入山するまでの30年近く、仏教徒では無い方を含む地域役員が大蔵寺を運営し、大蔵寺が所有する文化財を管理をするという異常な状態が続き、さらには偽造の契約書を作成し、大蔵寺所有の山林を開拓して地域の共同墓地を建立し、文化財設備である消火設備から墓の水を引くという、有ってはならない出来事が起こっておりました。

加えて、大蔵寺は文化財を所有していることから、観光の利にあやかりようとした地元有力者によって、無秩序な観光化を推し進められて尚更、大蔵寺は財政上でもモラルの面でも、疲弊して混沌とした状況となってしまいました。

さらに大蔵寺の自主的な運営や経済活動も、全て地域の承諾を得なければ行いう事が出来ないまま、長い時間を過ごしてしまったのです。

大宇陀栗野という土地は、有力者や立場がある者が強い支配力を持つ土地柄で、地元民は何も知らされず、その者達の決定に従い、地域の決め事の問題や結論を知る必要も無い環境の中で培われた文化が継承されている土地です。

ですから、宗教法人とは何たるか、利害関係者とは如何なる者か、自治会と宗教法人と

はどのようなものであるか等、知るよしも有りません。

大蔵寺は、地元有力者によって不当に占拠されている状態の中で、現代表（現住職）が長谷寺での修行を終えて大蔵寺に入山した時には、観光客によって荒れに荒らされ、モラルや秩序が崩壊し、誰彼構わず好き勝手に振る舞える寺院となっており、住職には一切の権限は無く、ただ地元民の言いなりになっているお寺と化していました。

文化財である本堂前に、使用済みのコンドームが捨ててある寺院など、他には無いでしょう。

それほどまでに、モラルと秩序が失われていたのです。

それでも、高齢の先代住職は何も行動を起こすこと無く、ただただその状況に甘んじなければならなかったのです。

勿論、それで良いはずはありません。

現大蔵寺代表は関東圏内からやってきた、元々は国家公務員であり、僧侶としても当然にして宗教法人法や寺院規則、文化財に関する法律も学んでおりましたので大蔵寺の、このあり得ない状況を改善するべく、地域からの支配から脱却をし、運営を立て直さなければならぬと考えて、自治会から無遠慮に選出されていた大蔵寺役員では無く、寺院規則に則った正規の檀家信者から役員を選出する方針を大蔵寺住職に進言をし、法律に基づく役員選抜を行いました。

しかしながら、それが地元の有力者の逆鱗に触れ、初めの紛争が起こってしまいました。

この問題をさらに酷い物にしたのは、無知な大宇陀町（現宇陀市）役人が、地域の有力者を後押しをし、宗教法人の利害関係者は檀家信者では無く、地元民であるとアドバイスをしてしまったことから、紛争の非に油が注がれてしまった状態となってしまいました。

後、大蔵寺内にあり、自治会に土地を貸している自治会の共同墓地（栗野霊園）についての違法行為の露見を恐れた自治会長によって、有力者同士のネットワークを利用して、大蔵寺に対する誹謗中傷や現代表に対して宗派に解任要請を行い、村八分や行政サービスが受けられないような数々の行為や、大蔵寺来山者に暴言を吐くなどを行っていましたが、この様な状況であっても先に述べましたように地域民は一体何が起こっているか解らないまま、その風潮に乗っかってしまったのです。（地元民曰く）。

この地元有力者や自治会長は、市外の有力者などの協力を得て大蔵寺代表を追放しようと奔走し、結果として大蔵寺への誹謗中傷は都市部までに届き、今までの無法な観光客からの被害など様々な要因も重なり、ついには法人解散を決断せざるを得ない状況に陥ってしまいました。

しかしながら、この様な状況や有力者の不正を薄々知っていた地元民から協力を得られるようになり、表だつての行動は地元有力者の目があるので、影ながら大蔵寺と現代表を助けて下さる方々も多くなって参りました。

その方々は、この地元根付いている悪しき因習である有力者や、立場がある者によって衰退していく地域を看過できない事と、そして有り難いことに唯一この因習と有力者に楯突き、立ち向かった近年の大蔵寺の行動を評価して下さり、今までの大蔵寺と自治会の問題を公にすることで、この因習の払拭と地元有力者による強権的な慣習を払拭する目的

で、このホームページ内で情報を公開するに至りました。

大蔵寺の考え

昨今、問題になっている地方の山村などで、外部からの移住者とのトラブルが沢山あります。

勿論、田舎暮らしや山村の文化には素晴らしいものが沢山ありますが、この現代社会において法を遵守し、他人の権利を守り、民主的で余所からの移住者でも平等に生活できる社会を構築しなければならないと、大蔵寺一門は考えております。

古い慣習の中で、有力者や立場がある者が地元地域や他人を支配するような社会は、たとえ地方や山村であっても、絶対にあってはなりません。

ましてや、その者達が行った不正や不当な行為を見過ごすような地域社会であってはなりませんし、それを諫めるのが本来の寺院の役目では無いでしょうか。

現在の大蔵寺一門、役員一同の反省として。

これらに抗い、諫めることもせずに屈服をして服従してしまった大蔵寺。

そして、争いは時間が解決してくれるという消極的な姿勢が、さらに悪業の片棒を担いでしまうことになってしまった事。

これらを深く反省をし、今後は本来の意味する自由と平等な社会を目指すために、これらの因習や地元有力者などの圧力や横暴には、頑として向かいあって行く事と致します。

今後は立場がある者の横暴や、権力者の強権的な支配に屈してしまった反省を活かしてこうと考えております。